

校長先生の初恋物語

第70話 ばけものきんに君

きんに君が走ります。
「ウォーーーーーッ。」
とさけびながら、走りま
す。もう、このイノシシを
止めることはできません。
もしも目の前にコンクリ
ートの壁があったとしても、
暴走イノシシはその壁を
ぶちこわして、進んでいく
ことでしょう。
きんに君は後悔していま
した。「どうしてきのこ君
に、あんなひどいことを
言うってしまったんだろ
う。」足長君が間に入って
くれて、あやまることは
できましたが、心の中では、
自分を責め続けていま
した。朝の秘密練習では、
鬼コーチを引き受けてくれ
たので、みんなと練習でき
ないしよに練習できません。
でも知っています。きんに
君は、放課後一人で、暗く
なるまで運動場を走り続
けていました。みんなが下
校した後、一人で走り続
けていました。「きのこ君
のため」



「ばりたい。2組を優勝させたい。」そんな気持ちが一番強
くなっていたのは、きんに君かもしれません。

そんなきんに君の気持ちは、この日の走りでもよく分か
りました。きんに君はすごい勢いで、ぐんぐんと、1組、
3組に近づいていきました。バトンを落としたタンプさん
についてしまった差がどんどんなくなっていきます。

「ウォーーーーーッ!!!」

きんに君の声は、マンモス小学校の運動場全体に響いていま
した。その声にびびったのは、きんに君の前を走る2人です。
2人は後ろをふり返りました。2人が後ろをふり返り、見て
しまったもの、それは、恐ろしいきんに君の顔です。きんに
君の顔は、もう、人間ではありません。ばけもの顔です。その
顔があまりにも怖くて、その顔から逃げたくなって、1組、
3組のスピードがあがってしまいました。でも、大丈夫。き
んに君はさらにその上をいきます。2人がスピードをあげた
ことに気づくと、化け物はさらにパワーアップして、ブレー
キのこわれた新幹線のようになっていました。

「きんにくん。すてきー。」
バトンを落としてショックを受け
ていたダンプさんも、元気にな
りました。2組はまだビリのま
まですが、でも、これまでのリ
レー大会の時のビリとは違
います。あと2人。その2人の
がんばりによっては、ばんか
いできるかもしれません。

さあ、次が問題です。次は、ジ
ャイアンです。これまでのリ
レー大会で、一度も本気で走
ったことがない、ジャイアン
です。ジャイアンがちゃんと
走ってくれなかったら、すべ
てがおしまいです。どうなる
2組。どうなる、ミッタのク
ラス。リレー大会初優勝は
実現できるのか……。

つづく



次回予告

なぜだ、ジャイアン!!!!!!